ISSN 1345-3580

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.15 No.3 March 2014

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

3

CONTENTS

- 巻頭言
  『パンドラの約束』
  ／深谷忠一 1
- 天理教教理史断章（78）
  家城文書⑦
  ／安井幹夫 2
- 天理教伝道史の諸相（27）
  北海道の天理教②
  ／早田一郎 3
- 「おふでさき」の有機的展開（23）
  第三号：第百十八首～第百三十二首
  ／深谷耕治 4
- 新宗教のブラジル伝道（11）
  キリスト教の変容⑧
  ／山田政信 5
- 「いのち」をつなぐ―生死の現象（27）
  授かる「いのち」②
  ／堀内みどり 6
- ノーマライゼーションへの道程（25）
  福祉のまちづくり⑫
  ／八木三郎 7
- 図書紹介（80）
  『大衆社会の処方箋―実学としての社会哲学』
  ／金子　昭 8
- English Summary 9
- おやさと研究所ニュース 10

「教学と現代 10」海外伝道の現状と課題シリーズ―ヨーロッパの宗教事情と天理教の伝道―報告：第１回（金子昭）／出張報告：法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナーに参加（深谷忠一）／「天理教社会福祉研究プロジェクト」研究会を開催（金子昭）／第 267 回研究報告会：天理教神学の輪郭と課題―『天理教神学序説』及び『天理教教義学序説』を手掛かりとして（深谷忠一）／おやさと研究所「開講 20 周年記念・公開教学講座」のお知らせ

巻頭言

『パンドラの約束』

おやさと研究所長　深谷忠一　*Chuichi Fukaya*

『パンドラの約束―PANDORA'S PROMISE』という映画が話題になっています。アメリカの環境保護派のオピニオンリーダーとして知られたロバート・ストーンが、他の原子力反対派知識人らと共に、その主張を 180 度転換した軌跡をえがいている映画です。

1988 年にアカデミー賞候補となったドキュメンタリー映画『ラジオ・ビキニ』で監督デビューをして、人生の大半を反核運動に捧げてきたロバート・ストーン監督。そして、アップルの創始者・故スティーブ・ジョブズにも多大な影響を与えた人物として知られ、1968 年に創刊されたエコロジーのバイブルといわれる雑誌『ホール・アース・カタログ』の編集・制作者であり、「ロング・ナウ協会―遙かなる未来を考える組織」の代表で、アメリカにおける環境保護運動の巨頭として知られるスチュアート・ブランド。また、イギリスの作家・環境活動家で、反遺伝子組み換え（GM）活動で知られ、『温暖化する地球での私たち」で王室科学賞を受賞したマーク・ライナース（最近彼は、遺伝子組み換え技術についても、飢餓や環境対策上不可欠なものであると、それまでの反対運動を謝罪した）。そして、『環境保護主義の死から、可能性の政治』の著作で知られ、その研究成果をオバマ大統領も演説で引用するブレークスルー研究所の創設者マイケル・シュレンバーガー。さらには、科学者、政治家、軍人、被爆者に対する膨大な調査をもとに、核分裂・核連鎖反応の発見から原爆の製造計画、そして広島・長崎への投下までを描く『原子力爆弾の製造』を書いてピューリッツアー賞を受賞し、その後も『原爆から水爆へ』『愚かさの備蓄』や『爆弾の黄昏』等の核に関する著作を出しているリチャード・ローズ。これらの世界的に知られた環境保護活動家で原発反対派のリーダーだった人たちが、揃ってこの映画に出演して、自分たちが原発擁護の立場に転換したことを表明しているのです。

このような人たちが全員なぜその主張を覆したのか？その裏には何か大きな力が働いているのではないか？と勘ぐるむきもあるかも知れませんが、この映画のスポンサーは個人の投資家のポール・アレン（マイクロソフトの共同創業者）などであり、政府や大企業などいわゆる“原子力村”の影響などは及ばない人たちによって作られています。また、この映画が最初に公開されたのも、昨年１月の『サンダンス映画祭』（ユタ州のスキーリゾート、パークシティで、1978 年より毎年１月中旬から 11 日間に渡って開催されている大手映画会社の配給でない独立系映画の祭典）の会場であり、その時の観客も 75％が原発に反対の人たちでした。ところが、“その観客の約８割が、映画を見終わった時に原発支持に変わった”と新聞などが報じて、大きな反響を呼んだのです。

この『パンドラの約束』は、日本でも今春公開予定ですが、人類の未来を決する原発問題を考えるためには、誰しもが見逃せない映画だと思います。また『ウエッジ』という日本の雑誌が、ストーン監督に聞いた「映画『パンドラの約束』特別インタビュー」をネット上に公開しています（Google で「ウエッジ特別インタビュー」を検索して「映画『パンドラの約束』ウエッジ Infinity」を開くと読めます）。彼の主張が理路整然と述べられていますので、一読すれば彼が原発推進に転じた理由がよく理解できるでしょう。

その他、この映画には出ていませんが、イギリスの作家、地球を超個体と見なすガイア理論の提唱者として有名な環境・未来学者であり、大英帝国勲章を授与された王立協会会員、現在は海洋生物学会の会長であるジェームス・ラブロック。そして、グリーンピースの共同創設者であり、エネルギッシュな反核活動家として知られたパトリック・ムーア。彼らもまた原子力擁護に転換しています（ムーアは、人間起源の壊滅的気候変動については懐疑的ながら、その他の理由で転換）。

自らが築いた名声の崩壊や反核グループの批判の声を恐れずに、彼らがなぜ原子力擁護に転じたのか？“知恵ある人たち”が人生を賭して出した答えに、虚心坦懐に耳をかたむける時が今ではないかと思う次第です。